

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事前・中間評価)

課題名「木質複合建築構造技術の開発フォローアップ」

1. 主な所見

- ・ 所見 : 体制等について

避難の問題, 耐火時間の問題, 周辺の建物への類焼の問題など, 総合的に考え、合理的で調和のとれた耐火設計と構造設計のできる設計環境を作っていただきたい。

取り組みの体制としては、民間との共同が大切ではあるが、社会的な批判を招かぬよう公平に、広く共同を呼びかけて頂きたいと思う。

総プロは多くの機関の参加を求めて実施されたものであり、成果については、参加機関内で何年かクローズされる契約になっていると記憶していますので、その成果を使ってのフォローアップの実施に当たっては、他機関の承諾を得る必要はないのでしょうか? 研究開始の前に必要な処置をしておいてください。

- ・ 所見 : 建築研究の役割について

総プロで得られた成果のうち、普及可能性の高い課題を抽出してフォローアップすることは、総プロの価値を高める意味で有意義であり、ぜひ実施していただきたい。

もう少し具体的な目標が必要。必ずしも建研の研究である必要があるとは思われない。

総プロで完結できなかった課題の補完的な研究・開発であり、建築研究所以外に可能な場所はない。

- ・ 所見 : 課題の社会的ニーズについて

具体的なテーマとして掲げられている「平面的な木質系混構造の汎用化と簡易構造設計法の確立」に関しては、どの程度の社会ニーズがあるのでしょうか? 研究開発の開始以前に、社会ニーズを把握しておいてください。

- ・ 所見 : 部材について

部材に関して具体的な説明が欲しい。

- ・ 所見 : 耐久性・居住性の検証について

耐久性や居住性等の試設計における検証が必要。出来れば実証実験もして欲しい。

- ・ 所見 : 特許について

特許に関する記述が欲しい。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答:

これまでの木質複合建築構造技術の開発で組織した共同研究は解散しますが、5カ年間の成果を明確にし、各団体には成果について了解を得て終了する予定にしています。また、新たな検討を開始するに当たっても、これまでご協力いただいた方々にご了解をいただいた上で、必要に応じ、一部の方には継続してご協力をいただくことも考えています。5カ年の当初に共同

研究として契約した部分については当然のことながらルールを守って進めます。

・ 所見 に対する回答：

これまで実施した木質複合建築構造技術での成果をまずは明確にし、実用化に向けて仕切りなおしをすることを考えています。新しい材料の評価、新しい木質構造の汎用性を高めること、更に、それらの地震時信頼性や防災対策の評価については、建築研究所が積極的に進める課題と認識しています。なお、木造5階建てを建てたいという施主が

・ 所見 に対する回答：

検討対象については、これまで共同研究をおこなってきた機関と社会のニーズについて協議をした上で、決めています。研究開発が実質的に開始されてから再度、社会のニーズやシーズという観点から継続課題を明確に整理したいと考えています。

・ 所見 に対する回答

紙面の都合上、部材についての詳しい説明は省略しましたが、補足資料中に開発の主対象である“燃え止まり部材”について記述があります。補足資料をごらんいただきとう存じます。なお、そのほか、5カ年の間にはいくつかのハイブリッド部材を開発しましたが、現在のところ“燃え止まり部材”を中心に2カ年間の研究を進める予定です。なお、燃え止まり部材については実際の建設予定の木造5階建ての設計・製造を通じて、実用化に向けての検討を重ねています。

・ 所見 に対する回答

どのような検討が必要か今後詳細に検討をいたします。

・ 所見 に対する回答

建研が主体となって特許申請をしている部材は現在のところありませんが、特許となるような技術の開発を今後も目指していく予定です。